

7月8日「JKK第4回定例会議を別府温泉「悠彩の宿 望海」にて開催しました。

今回の勉強会では、「生成AI」と「宿づくり」という一見異なる二つのテーマについて学びましたが、どちらにも共通していたのは、「人を大切にする」という、おもてなしの心でした。

第一部では、株式会社サードン代表取締役の三浦康平氏を講師

に迎え、生成AIの活用方法とリスク管理について学びました。実際にChatGPTを



三浦氏

おもてなしとAIは両立し

定例会議
レポート

使って売店商品のPOPを作成すると、驚くほど短時間で魅力的なものが完成し、その可能性の大きさを実感しました。

私自身、これまでAIは旅館ホテルのおもてなしと少し距離が

あるものだと感じていました。しかし、今回の学びを通じて、その考えは大きく変わり、AIは人に代わるものではなく、時間を生み出し、その分、人にかできない会話や気配りを深めるための心強

い存在だと感じました。同時に、著作権や情報管理などのリスクについても理解を深めました。「正しく知り、正しく使う」ことの大切さも実感しました。

第二部では、望海代表取締役社長の木村大

成氏より、自社のブランド再建への歩みについてお話を伺いました。厳しい経営環境を乗り越えながら「ありがとうと言われる宿」を目指し、スタッフ一人ひとりを大切にする姿勢に深く共感し、施設の魅力は設備だけでなく、人への信頼と感謝の積み重ねによって生まれることを改めて教えていただきました。

今回の勉強会を学んだのは、AIと人の温かさは決して対するものではないということです。AIが業務を支え、人はお客様や仲

間と向き合う時間を増やす。その積み重ねが、より温かく、魅力あるおもてなしにつながるのではないのでしょうか。

宿泊業を取り巻く環境は大きく変化しています。しかし、どれほど時代が変わっても、人のぬくもりこそが価値であることに変わりはありません。全国の仲間と学び合い、新しい技術も柔軟に取り入れながら、これからの時代にふさわしい「おもてなし」を築いていきたいと願います。

(研修委員会委員長
・谷口豊理)